

ともに生きる社会へ

自分らしく つながっていく



尾方敦浩さんは6年半前赴任先で倒れ、脳出血による右片まひと失語症を伴う高次脳機能障害に。利き手ではない左手で字を書く練習や食事の絵日記を続け、今では孫や仲間の似顔絵を自由自在に描く。2025年、県主催の「第2回かながわともいきアート展」で審査委員特別賞を受賞(写真の作品)。人物や動物の瞬時の表情をいきいきと切り取った作品は、見る人を引き込む。「今後は絵本にも挑戦したい」と話す

障害者支援施設「津久井やまゆり園」で発生した事件から10年。7/20(月・祝)~26(日)は、県が定めた「ともに生きる社会かながわ推進週間」です。誰もが地域でそのらしく暮らせる社会を実現するために、私たち一人ひとりができることを考えてみませんか。地域活動支援センター「^{らくあん}楽庵」、「サザンベア」の各施設長にお話を聞きました。

障がい福祉課 ☎(81)7159

人 どのつながりの中で 立ち上がっていく

地域活動支援センター 楽庵 施設長 鈴木浩子さん

楽庵には、脳梗塞や脳出血、交通事故などをきっかけに高次脳機能障害になった方が多く通所しています。高次脳機能障害は脳の損傷によって起こり、失語や記憶障害などさまざまな生活の困りごとが生じます。利用者は一般企業などで働いていた方が多く、「元の生活に戻りたい」「復職したい」などの目標を持って過ごしています。

ここでは利用者同士が自らの経験を話したり、「自分もそうだった」と共感し合ったりしています。人と関わる中で今の状態を理解し、少しずつ自己認識を深めていくことも楽庵で過ごす大切な時間になっています。

障がいがあっても、一人の人として尊厳を持って過ごせることが大事です。楽庵は何かをしてもらう場所ではなく、自分でやりたいことを見つける場所です。就労したい方もいるし、誰か

の役に立ちたい方もいる。その気持ちを引き出したいんです。それぞれの興味や経験に合わせて、英会話やクラフト、陶芸、模型作りなど活動内容もさまざまです。尾方さんも、その一人です。尾方さんは失語症があり、現在は絵を描くことに力を注いでいます。奥さまは、「以前は本人が人と会話することを諦めていたこともありましたが、絵を見てもらうことで新しい世界が開け、人とつながれるようになったんです」と話されていました。他にもプラモデル制作をリハビリにしている方、小説を書き続けている方、英会話を楽しむ方、それぞれが自分のペースで居場所を見つけられています。

誰もが突然、障がいを抱える可能性があります。それでも、人とのつながりの中で、少しずつ立ち上がっていく。ここはそんな場所でありたいと思います。



プラモデル制作をリハビリにしている通所者の作品が数メートルの棚にずらりと並ぶ

尾方さんの作品。施設長の似顔絵(下)、保育園での親子のふれあいのため、段ボールに描かれたキリン(右)



理事長で言語聴覚士の近藤裕美さん(右)、施設長の鈴木浩子さん(左)



「アクリルクロスをつくるのが楽しい」と話す利用者の田中楓さん。しっかりと糸を詰めて織られ、丈夫に

地 域とのつながりで 笑顔が増えていく

地域活動支援センター サザンベア 施設長 山本恵一さん

サザンベアは、障がいのある方が地域で自立と社会参加を目指す、創作・生産活動の場です。利用者は20代から70代まで幅広く、特別支援学校などを卒業した後通い始める方がほとんどです。作業内容は、主に手織りのマフラーやコースター、刺し子作品の制作の他、企業から受注した雑誌付録の折り込みなどを行っています。サザンベアでは、利用者一人ひとりが楽しく明るく生活できるよう支援し、作業量に応じた工賃を支給しています。障がいがあることで家に閉じこもりがちになると、生活リズムが崩れ、身体が動かなくなってしまうことがあります。通所することで、規則正しい生活ができることが支援の大きな役割だと考えています。

また、地域にサザンベアの活動を知ってもらう取り組みとして、年数回「ふれあい作品展」などを開催しています。

利用者は自分の作品が誰かに購入されることがとても励みになっています。他にも自治会のイベントに参加して、地域との交流を楽しむなど、地域の方にも活動に協力していただいています。そんな中、市内の事業者が考案した手織りの食器洗い用アクリルクロスアクリルクロスの制作依頼がきました。アクリルクロスは、洗剤を使わず食器を洗うことができ、速乾性がある衛生的なクロス。商品化のため技術を学び、上手に編めるようになった利用者は、「色がきれいで、きつく編むところも楽しい」と、好きな作業の一つになっています。

誰もが暮らしやすい社会をつくるには、障がい者という先入観を持たず、互いに積極的に関わる気持ちが大切だと思います。日常のあいさつだけでも、十分気持ちは通じ合いますよ。



作業に専念しつつ、笑顔で迎えてくれた皆さん



▲手織りの夏用マフラー(左)・コースター(右)



施設長の山本恵一さん▶



◀市内事業者から受託し、作られる食器洗い用アクリルクロス



ともに生きる社会 かながわ憲章

「津久井やまゆり園」での事件を契機に、県と県議会が策定。「障がい者の社会への参加を妨げる偏見や差別を排除する」などの決意を表しています。



ともに生きる社会 かながわ憲章

道の駅 湘南ちがさき 交流広場にブース出店

福祉事業所「神奈川ワークショップ」、「ぐっじょが矢畑」が出店。ともに生きる社会かながわ憲章Tシャツや障がい者の制作品などを販売。
日時 7/24(金)・25(土) 9時~17時

ふれあい作品展

茅ヶ崎市地域作業所連絡会などの各事業所で制作された手芸・陶芸・木工作品などを展示・販売します。
期間 7/13(月)~17(金)、8/17(月)~21(金)、9/14(月)~18(金) 9時~17時(各回最終日は16時まで)
場所 市役所本庁舎市民ふれあいプラザ
問合せ 地域活動支援センター 光の風 ☎(58)9134

茅ヶ崎・寒川 障害者作品展示即売会

期間 10/5(月)~9(金)、2027年2/15(月)~19(金)10時~18時(各回最終日は17時まで)
場所 イオン茅ヶ崎中央店(茅ヶ崎3-5-16)